



令和5年度 一般社団法人 国宝修理装演師連盟 文化財保存技術（装演） 伝承者養成等事業の紹介

国宝修理装演師連盟は、選定保存技術である装演修理技術の保存団体として、修理技術者の装演に関する技能の習得と向上を目指し、後継者育成や周辺材料の探求につながる様々な事業を展開しています。令和5年度に実施した事業の一部をご紹介します。

【主な事業】

定期研修会、修理技術者資格制度、インターンシップ、近代絵画の修理ガイドライン作成、古代裂（表装裂）作製、劣化絹の照射方法の改良および作製、紙検査中級研修、補修紙作製研修、指定文化財修理記録データベース作成、間似合紙の確保

定期研修会

将来の修理技術者を養成するため、また啓蒙運動の一端として基礎知識の取得と向上のため研修会を実施。講演、講演者によるクロストーク、ポスター発表を行った。

また、この内容をまとめた報告集を作成し、関係者に配布した。

令和5年度 第27回定期研修会
テーマ「東アジアの紙文化財の修理」

日時：令和5年11月10日（金）
10:00～16:45

場所：京都府立京都学・歴史館 大ホール

参加人数：372名



修理技術者資格制度

資格試験のほか、新入の技術者が受ける新任者研修会、登録審査、技師に昇格するための初級講習会、主任技師試験を受ける者が受講する中級講習会、技師長試験を受ける者が受講する上級講習会を実施した。

国宝修理装演師連盟修理技術者資格試験

出願者及び合格者数（令和5年度）

出願者：5名

合格者：2名

詳しくは資格制度のポスターをご覧ください。



インターンシップ

文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた大学院生に対し、加盟工房での約4週間のインターンシップを受け入れた。文化財修理が実際に行われている現場を体感し、将来の職業選択に活かすことを目的としている。令和5年度は京都国立博物館文化財保存修理所内の(株)光影堂・(株)松鶴堂で実習を実施した。

◎京都市立芸術大学大学院の学生が2名参加。

◎技術修得事項として下記を実施。

- ・修理現場の見学
- ・糊吹き、疑似本紙補修
- ・その他各関心による実習

◎報告会（オンライン）

◎報告書の刊行



近代絵画の修理ガイドライン作成

修理の機会が増えつつある近代絵画について、今後安全で確実な統一された指針のもとで修理が実施されるよう、ガイドラインを作成する。

令和5年度は東京藝術大学の受託研究として、東京藝術大学美術館、東京国立近代美術館にて担当学芸員より作品についての説明および損傷等の問題箇所の共有を行い、状態調査および意見交換を行った。

連盟加盟工房より技師長5名、主任技師2名が参加。

実施内容を報告書として刊行した。

本事業については別のポスターにて詳しく紹介しています。



古代裂（表装裂）作製

表装裂の専門業者である鳥居株式会社に委託し、組織の異なる無地裂の製織に取り組んだ。さらに、各工房で裂地の発注権限を持つ技術者に向けた講習会を開催した。

講習会では、織物の研究者である五十嵐哲也様（山梨県産業技術センター）に織組織の基礎についての講義を受けた後、専門家の指導を受けながら西陣で紋図製作に使用している専用ソフトウェアを用いて各工房の担当者が紋図製作を経験した。



劣化絹の照射方法の開発、改良

絹本絵画の修理に欠くことのできない劣化絹について、より安定的に供給できるよう、従来の別の施設での劣化絹の作製を試行している。株式会社NHVコーポレーションのEBセンターにてこれまでに様々な条件下で照射試験を行った。

令和5年度は、株式会社NHVコーポレーションEBセンターでの劣化作業を事業として本格的に開始するにあたり、同センターの担当者によるセミナー（照射装置の説明、高崎量子応用研究所との同等点及び相違点、発注にあたっての留意事項など）を各社向けに実施した。



紙検査中級研修

高知県立紙産業技術センターの専門職員の指導の下、顕微鏡下での繊維の観察やC染色液を用いた検査実習を行い、研修生の観察力向上を目指す。

加盟工房より提供を受けた実際の文化財から得た試料に対し、2名の研修生が127件の繊維種の判定を行った。

検査結果は成績報告書としてまとめ、試料提供を受けた工房へ発行した。

第1回目：令和5年7月24日～28日の5日間

第2回目：令和5年10月16日～20日の5日間

計10日間（於：（高知県立紙産業技術センター）



補修紙作製研修

令和5年度は、令和4年度から引き続き「鎌倉時代の檀紙」用の補修紙を製作し、作製した補修紙の試作の評価と会議を行った。用具、原材料不足、燃料費等の高騰もあり、用具の製作、原材料の確保も同時に行った。

次年度は今回の総評を踏まえ、補修紙作製工程のまとめ・補修紙抄紙の発注の体制づくり・「引合」の復元に取り組む。

参加技術者数：10名

5月11日～12日：中世檀紙補修紙試作（於：高知県立紙産業技術センター）

5月22日～24日：中世檀紙補修紙試作（於：高知県立紙産業技術センター）

7月15日：補修紙製作事業全体検討会（於：京都国立博物館）

10月23日～24日：中世檀紙補修紙試作（於：高知県立紙産業技術センター）

12月9日：補修紙製作事業全体検討会（於：京都国立博物館）



指定文化財修理記録データベース作成

過去に連盟加盟工房が施行してきた国庫補助事業の情報を集約することで、加盟工房はもちろん、文化庁や関連自治体等が修理情報への円滑なアクセスを可能にすることを目的し、修理報告書のデータベース化を実施する。

令和4年度に引き続き、各社で作成している令和4年度に竣工した国指定品の修理報告書データ（必要に応じて不足しているものは過去に遡る）を収集し、絵画、書跡・典籍、古文書、歴史資料の分類、絹本、紙本などの分類を規則的に記号化してデータベースの構築を実施した。

また、昨年度までに蓄積したデータについて東京文化財研究所と共有し、連携を強化した。

品名	種別	修理内容	担当者	完了日
山梨県立美術館蔵 浮城屋敷	絹本	表装裂の修復	鳥居株式会社	令和5年7月
京都府立総合資料館蔵 源氏物語	紙本	紙の補修	京都府立総合資料館	令和5年8月
京都府立総合資料館蔵 源氏物語	紙本	紙の補修	京都府立総合資料館	令和5年9月
京都府立総合資料館蔵 源氏物語	紙本	紙の補修	京都府立総合資料館	令和5年10月
京都府立総合資料館蔵 源氏物語	紙本	紙の補修	京都府立総合資料館	令和5年11月
京都府立総合資料館蔵 源氏物語	紙本	紙の補修	京都府立総合資料館	令和5年12月

間似合紙の確保

修理に必要な手漉き紙は生産者の高齢化、後継者の不在が喫緊の課題となり、質の高い紙の確保が難しくなりつつある。

特に襖の下貼りに欠かせない間似合紙は、質の高いものを供給する生産者が実質1名となっており、供給が間に合わない状況にあった。本事業に於いて後継者の育成や紙漉き道具の確保を行った結果、高知県手漉き和紙協同組合の管理のもと生産体制が整いつつあり、一定量の発注を行う事で安定的供給体制を確立していくものである。

令和5年度は1,000枚を発注し、納品を受けた。

